養育院の児童教育 その1

櫻園通信　84　令和5年2月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先：老年学情報センター

宮本孝一
老年学情報センター

養育院の始まり　明治五年一〇月一五日、ロシア皇子来日に先立ち東京市中の浮浪者が本郷の旧加賀藩邸の長屋に収容されました。これが養育院の始まりとされています。このとき集められた収容者は約二四〇人、そのうち子どもが九七人いました。

収容者は翌年二月に貧民保護の常設施設として上野に養育院が開設し、その中には子どもの教育を行う一三坪の筆算所が設けられました。当時制定され伍長規則を見ると、筆算所では文字の読み書き教育が行われていたようです。はじめは子どもも大人も混在で収容されていましたが、明治一一年に筆算所は子ども専用の寝室に改修されました。子どもの教育は続けられ、一〇歳以上の子どもは午後は工業（実業教育）を受けました。

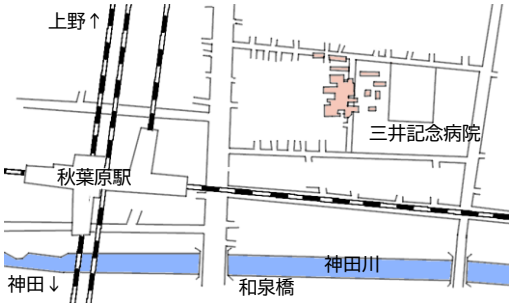
明治一二年に養育院は神田和泉町に移転。このころから子どもの不良化が顕著になってきました。また気力が無い不活発な子どもも多く見られ、渋沢栄一院長は親代わりの愛情をもって子どもに接する必要を説いていました。

本所長岡町時代　明治一八年、税からの運営費支弁が打ち切られ渋沢栄一が運営費を担うことになった養育院は本所長岡町に移転。そこには幼童室・教場・幼童者手洗所が設けられました。このころ子どもの処遇改善のために瓜生岩子が招聘され幼童世話掛に就きました。

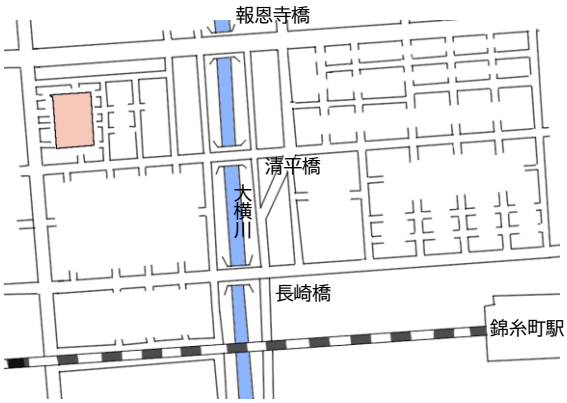
子どもの教育は尋常小学校に準じた内容とし、読書・作文・習字を主とした簡易教科書が使われました。

大塚時代　明治二九年に養育院は大塚に移転。大塚時代には感化部開始、安房勝山町に臨海保養所開設（明治三三）年、井之頭学校開校（明治三八）年、安房分院・巣鴨分院開設（明治四二）年と、子どものための諸施設が次々作られました。

大塚移転時は、本所の教場が移築され、簡易な課程の小学校としました。小学校では修身・読書・作文・習字・算術の授業が行われ、修身科が特に重視されました。教師は、書記一人・雇人二人の三人でした。



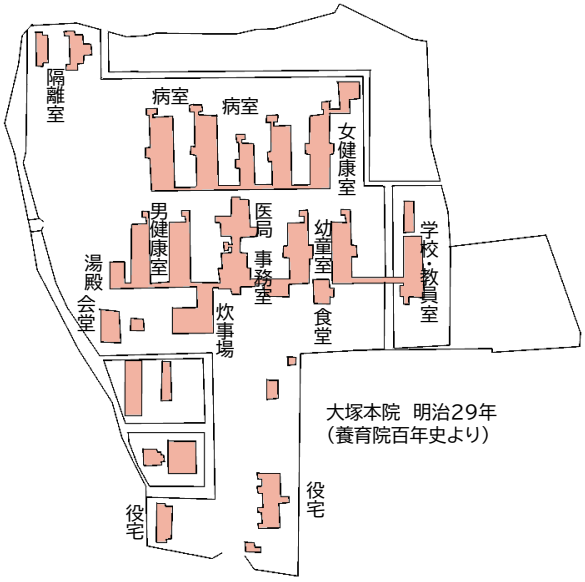
養育院の位置（実測東京全図　明治11より作図）



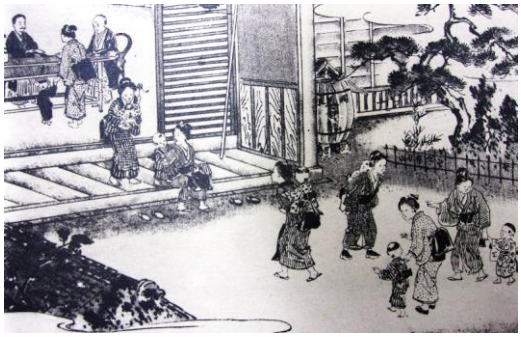
養育院の位置（塩見鮮一郎「貧民の帝都」より作図）

明治三二年頃から収容児童が増加したため、明治三五年に新校舎が建てられました。それまで使っていた教場は、指物や組紐などの指導そする手工教場となりました。女子はさらに裁縫・編物・造花を行い、手工の技能育成を図り、製作品の売り上げは女子の賃金と出院後のための貯金としました。

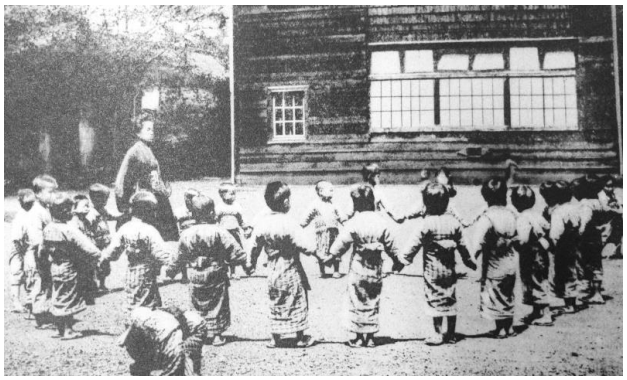
不良化する子ども　日清戦争以降、東京市中では棄児や孤児の不良化が顕著になってきました。養育院の中では収容した子どもが不良少年の影響を受けるようになり、普通児童と不良児童を分ける必要が出てきました。まずは敷地内に幼童室とは別に感化部を設けて不良児童を隔離しました。しかし環境改善の効果はなく、不良児童の専門施設を本院から離れた土地に設けることとし明治三八年に井之頭学校が開校しました。



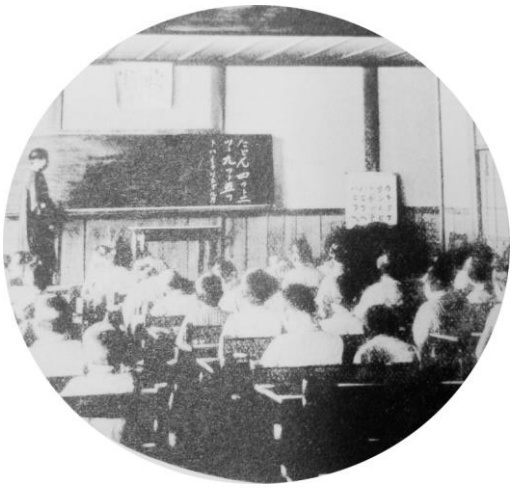
大塚本院　明治29年
（養育院百年史より）



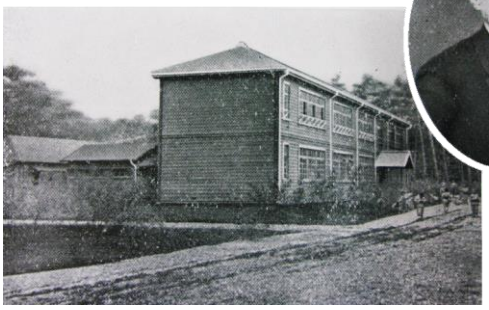
里親へ里扶持を渡す　明治30年ごろ
（創立六十周年記念写真帖　東京市養育院　より）



幼稚園児　明治40年
（創立六十周年記念写真帖　東京市養育院　より）



教場　明治39年
（創立六十周年記念写真帖
東京市養育院　より）



創立当時の井之頭学校（養育院六十年史より）

感化部顧問
三好退蔵